

9月に入りましたが、残暑で汗ばむ日々がまだまだしばらくは続きそうですね。夏から秋になる季節の変わり目、そろそろ金木犀の甘い香りがする時期も近づいています。季節の移り変わりを楽しみつつ、体調には十分気を付けて行動制限のないそれぞれの秋を楽しみましょう！

～猛暑酷暑に 涼しいお話を少しだけ～

この原稿を書いている8月初旬、福岡では今日まで7日連続最高気温35℃以上の猛暑日が続いています。ちなみに昨日は朝9時～夜9時まで30℃以上でした。7月の最高気温をちょっと調べてみますと、1ヶ月のうち最高気温30℃未満はわずか1日、ということは30℃以上が30日、そのうち何と6日間35℃以上の猛暑日がありました。



自分の身は自分で守らなきゃ、ということで頭のとっぺんの天然傘？密度の薄い僕としては、3年ほど前に家人に男性向け晴雨兼用日傘を買ってもらったのですが、去年までは年1～2回しか使ったことがありませんでした。今年は毎日鞆に入れて外出しております。水分補給用の650mlの増量麦茶も入っており、鞆が重くて大変です！

僕の実家は日本三大霊山の一つ英彦山の麓、標高500m位のところにあり、裏に遠賀川の支流の彦山川のさらに支流の名前のない川（僕は「裏の川」と呼んでいます）が流れています。高校を卒業するまで住んでいましたが、エアコンが無くても扇風機とうちわと簾と打ち水程度で夏が過ごせました。僕の部屋は2階の和室でしたが、昼はさすがに直射日光が直撃でモワ～とするので扇風機の前に氷をたんまり入れたバケツを置き、気分だけ涼しく（実際も少し涼しくなりました…）過ごしていました。もちろん窓を開けて寝るわけですが、明け方になると冷気が入ってきて薄い夏布団では少し寒いな～、なんて感じることもありまし



た。さすがに僕が社会人になった頃にはエアコンを付けましたが、給湯器は母が亡くなった後まで付けておらず空配管のまま、ひねってもお湯の出ない赤マークのついた蛇口が洗面所、台所、浴室（外からガスバーナで沸かす風呂）にありました。母が「要ら

ん！」と父に言っていたそうです。冬の朝など顔を洗うと一発で目が覚めていました。（これも涼しい話の一つと思って下さい）父が一人暮らしになった後、電気温水器をプレゼントしたら、「冬は助かる。良くなった、良くなった。」を連発していましたが、何でもっと前に二人で暮らしていた頃に付けなかったのか…ちょっと後悔しました。

英彦山の実家の納涼アイテムは縁台、風鈴、よしず、麦茶、スイカ、カルピスを製氷皿で凍らせる安上がりシャーベットもお気に入りでした。そういえば数年前、わが家のマンションに夏の間、窓のカーテンレールに伊万里で買った風鈴を付けていたこともありま



す。結構いけますが、今年の猛暑には無理でしょう、窓を開けるとクーラーの室外機の熱風まで入ってきて換気タイムは5分と持ちません。あとはやはり怖い話でしょう。子供の頃はお盆にいとこたちが泊りに来るので、夜はTVで怪談シリーズを観た後に、直方の従弟が犬鳴峠の怪談話（「犬鳴村心霊スポット」でネット検索できますよ）で盛り上げ、その後ゲーム（トランプ？）で負けた者が真暗な夜道を懐中電灯照らして近くの店（といっても300mくらいはあり、途中で街灯は2つくらいしかありません）の前の自動販売機でジュースを買いに行く＜肝だめし＞なんかやったりして。

ま、そうは言っても「暑い日は暑いものだ！」と割り切って熱中症に気を付けつつ、夜になってクーラーの効いた部屋で缶の生ビールを飲む！これに勝る納涼は見つからない今日この頃です。汗をかかからビールが美味しいわけで…。ま～、仕事で冷汗はかきたくありませんがね～（^^）



代表取締役 樋口 繁樹

「現象には 必ず理由がある」 文：長友

私は高校生の時から物理の授業が大好きでした。特に公式の証明をしていくことが好きで、試験期間になると誰もいない教室の黒板に向かって数式を書き殴っていました。物理をきちんと習ったのは高校生までだったので、大学レベルのことは全然わかりませんが、どんなに難しい公式であれ、突然変異的に表れるわけではなく、必ず物理世界の原則に帰着していくのです。私はこの事実で感化され、自分の思考の根幹に据えてきました。



一番効果が出たのは、ソフトテニスです。高校までは、一言で言い表せるような考え方、例えば「インパクトの瞬間だけ思いっきり握る」とか「速い球を打ち返したかったら腰を落とす」とか「ボレーの時はラケットを引くな」とかいう伝統的な教えを信じてやまない純粋なテニス少年でした。上手い出来ないなら、これらのことができていない。トップの選手たちも同じ考えを持っているに違いない。

どれだけ練習しても、トップ選手のボレーやストロークの軌道や威力にならないのです。そのあたりから、練習量が違うからというような逃げの言い訳をし始め、当然、大会での成績も落ちていきました。

ですが、大学受験で物理をより深くまで勉強し、物事には必ず理由があると理解したとき、自分のボールがへなちょこなにも理由があるのでは？トップ選手のボールが強いにも理由があるのでは？解明してみたい！と思うようになりました。

大学入学後、私は部活動に打ち込み、学校の勉強そっちのけでテニスの研究に励みました。その結果、大学の成績と引き換えに、様々な研究成果を出すことができ、自分の実力も向上していきました。



この研究は私のライフワークとして続けていき、いつか子供たちに伝えることができたならとも考えています。まだまだ運動方程式のような絶対的な理論を構築できているわけではないので、根気強くやりたいと思います。

しかし、社会人になってからというもの、テニスに時間を割くことができなくなり、研究熱も冷めつつあります。毎日好きなだけテニスできていた学生の頃がどれだけ幸せな時間であったかを改めて実感しています。当時はそんなことは微塵も思わず、その環境が当たり前でずっと続いているのだと思っていました。この生活がずっと続くんだと思う時が、一番幸せな時期なのかもしれないと思う今日この頃です。

プロスペリテのHPが リニューアルしました！



Google YAHOO! JAPAN

「プロスペリテ」で検索いただく・・・



便利な駅近の物件多数です！

HPから資料請求も可能です！

「これからの家族に必要」が、ぎゅっと詰まっています。

都市型戸建住宅

ラプロスの戸建プロスペリテ
PROSPERITE

—都市型の機能性を戸建て住宅に—

家族にとって快適で楽しい暮らし。

現在販売中の物件はもちろん、今までの実績一覧や360度パノラマビューも掲載しておりますので、ぜひ一度ご覧ください！

免許皆伝

MENKYOKAIDEN

その65

『おとなの社会科見学』の巻

私アラキの戸建てへの思いをつらねるこのコーナー、今回で65号となりました。ご自宅の断捨離で大量のごみが出て処分に困っている方もいらっしゃるのでは？何でも自分でやってみるアラキは、大量のごみを自分で直接ごみ処理施設まで持って行ったことが何度かあります。最近のごみ処理施設は匂いも感じず、公園施設が併設されたりしているところもあります。

今回はいつもと趣向を変えて、前々から見たいと思っていた広島市にある広島市環境局中工場（なかこうじょう）というごみ焼却工場を見に行った話です。

2004年に建設されたこの広島市のごみ焼却工場は、谷口吉生さんという建築家が設計した建物です。谷口吉生さんは、端正な、控えめなデザインの中に一つの筋が通った緊張感のある設計をされる方で、アラキがとても好きな建築家のひとりです。日本各地に美術館をはじめ多くの作品があり、アラキはこれまでに東北、北陸、四国などにある作品を見に行きました。先日、やっとこのごみ焼却工場を訪れることができました。

その巨大な建物は、大きな立方体を組み合わせた形状となっていて、ごみ焼却工場というよりも美しい造形物と言える外観で、ボリュームを感じません。正面から見ると、建物を2つに分けるガラス張りの部分が見学ルートになっているのがわかります。

階段を上がり見学ルートを進むと、大きなガラスで仕切られた向こうにたくさんの巨大な機械が、圧倒的存在感で目に飛び込んできます。銀色に鈍く輝く機械群の姿はとても美しく、美術館の展示物のよう。世界で一番美しいごみ処理施設だと思えます。

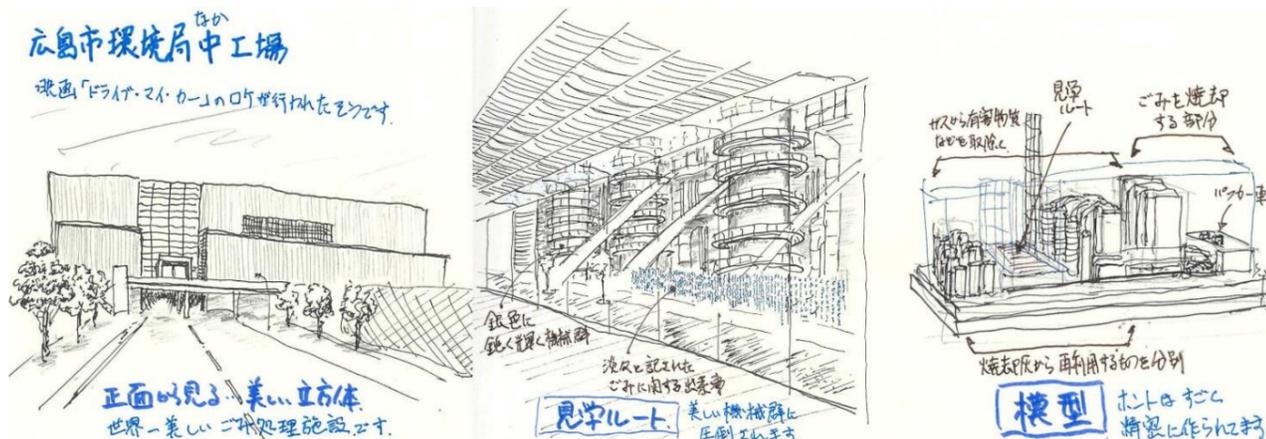
しかし注目するのはその機械群ではなく、見学ルートと機械群を仕切るガラスに書かれた、広島市のごみ処理の取り組みの年表なのです。広島市におけるごみに関わる問題について、何年何月に何が起こったと100年以上前から今日に至るまで細かく綴られています。…ごみは生活する上で必ず発生する。明治初期は農家でたい肥としたり、個人で燃やしたりしていたが、人口増によりそれが追いつかなくなってきた。川に捨てられ、海に捨てられ、衛生上の問題も起こった。埋め立て処分場を造るも地域住民の反対活動で争いになった。ごみの量は増えていく。そこに戦争。そして復興。都市化が進みごみ問題はますます深刻になっていく…。

淡々と書かれたひとつひとつの出来事を、時間をかけて読みました。都市化が進む現状、行政の取り組み、地域住民たちによる生活を守るための反対活動。難しい問題です。長い年月の間、いろいろなものがぶつかりあったのだと思えます。私達は、要らなくなったものを何も考えずにポイとごみ箱に捨てます

が、そのごみが運ばれていく先には、長い年月の中でいろいろな思いと衝突があって、それらを平和的に解決した結果ごみ焼却施設というものがあるのだと感じました。

見学ルートを進むとその工場の内部模型が展示されており、目の前に見える巨大な機械群がどのような働きをするかを説明しています。その模型をごみ投入から辿って見ていってわかったのですが、その巨大な工場の中でごみを焼却する部分は、全体の4分の1ほどの規模しかないのです。全体の半分近くは、焼却して発生したガスから硫黄などの有害物質や匂いを取り除くための機械であり、いま目の前にある機械群がまさにそれでした。他にも焼却灰から金属や固形物を再利用するために分別する機械や、焼却時の熱を利用した発電設備などもあります。ごみを焼却することによる環境への影響を最小限に抑えるために、私達の想像を遥かに超えた努力をしていることをはじめて知りました。

この広島市環境局中工場だけでなく、すべてのごみ処理施設、すべての生活施設や社会基盤がそうなのでしょう、私達の知らないところで頑張っている人たちのおかげで、今の暮らしの安心と将来への責任があるのだと、見学ルートを抜けた先に広がるキラキラ光る瀬戸内の海を見ながら感じたのでした。



山森の

おすすめの○○

～ スポーツライフ ～

先日41歳を迎えた山森です。今年の4月に長男が中学生となり、バレーボール部に入りました。息子は、小学生の頃までは運動音痴で鈍臭いイメージだったのですが、気が付けばバリバリの部活少年になっており、ゴールデンウィークに息子と50m走の勝負をしたら、完敗を喫しました。

「子供に負けて悔しい、そんな筈はない ⇒ スポーツに打込んでいることが羨ましい ⇒ まだまだ自分も

何かのスポーツを練習すれば結構うまくなるんじゃないか ⇒ 部活がしたい」的な発想から、息子と勝負すれば圧勝できるであろうバスケットボールの練習を始めました。中学校卒業以来ですから、かなりのブランクです。

実は、半年前くらいにバスケットボール漫画の「スラムダンク」を全31巻大人買いして胸熱になり、最近ではYouTubeでドリブル技術やシュートのお手本、練習の仕方に至るまでの動画をかなりチェックしておりました。まさに『安西先生、バスケがしたいです。』状態だったのです。

ということで、子供が夏休みに入るのと同じタイミングで、四半世紀

ぶりにバスケットボールを購入しました。昔は何も考えずに練習をしていましたが、今は体力がない分効率の良いYouTube先生のご指導のもと、しっかりと基礎練習を行っております。

Instagramの動画でも、小学生がとんでもないドリブル・フェイント・ドライブのテクニックを披露しており、それに追いつけ追い越せの精神で継続していけるように頑張りたいと思います。

ちゃんと上達したら、バスケット



ボール未経験の息子たちと1on1勝負で圧倒し「お父さん、すげえ！」と、まだまだ現役でいける感を強めに示したいと思います。

今年の冬には、映画「スラムダンク」も公開される予定で、世間ではまたバスケットブームが到来しそうで楽しみです。

以上、「おすすめの動けるおじさん計画」でした。

〈バスケットボール漫画「スラムダンク」の1シーン〉

安西先生、バスケがしたいです。



↑
安西先生

ご紹介キャンペーン

ご家族・ご友人をご紹介ください！

5 商品券
万円分

ご紹介者さまにプレゼント！

※ご紹介者さまからの紹介でご成約に至った場合

新築戸建「プロスベリテ」
ホームページはこちら



Instagramは
こちらから



らぶれたーのご意見・ご感想を
お聞かせください！

ラプロスの広報誌「らぶれたー」は2008年12月に創刊し、今号で86号となります。ここまで発行を続けることができたのも、温かく見守っていただき、時にご意見やご感想をいただく皆さまのおかげです。今後もより一層の向上を目指しています。皆さまのご意見・ご感想をぜひお聞かせください！FAX・メール・おハガキにて受付中です。



住所：福岡市中央区天神1-12-1-5F
FAX：092-737-2212
MAIL：info@lapros.co.jp
「らぶれたー」まで

編・集・後・記

文：中村



今年の夏もかなり暑かったですね。暑いのが苦手なので毎年「去年より暑い～」と言いながら頑張って耐え忍んでいます。

今年は特に行動制限もなく、昨年の夏よりもだいたい夏らしいイベントを楽しめた方が多いのではないかと思います。

私はというと夏らしいことを特になんかできず、しいて言うならおいしいかき氷を食べに行ったことと、涼しい部屋の中テレビで甲子園を見ていたことくらいで、バーベキュー等、何か夏らしいことができればよかったかなと少し後悔している今日この頃です。

グランピングにも興味があるのでもう少し涼しくなってきたらチャレンジしてみようと思います。